

## 新価値創造展2019（中小企業総合展） 生産性向上、SDGsなどテーマに開く

独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構、豊永厚志理事長）は

11月27～29日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで全国の中小企業が持つ優れた製品・技術・サービスを紹介し、ビジネスマッチングを行う「新価値創造展2019（第15回中小企業総合展東京）」を開催した。同展示会は、産業・技術、健康・福祉、環境・社会の3分野29カテゴリ

りから約380社が出展、全国から3万人超が来場した。

今回は、世界的にも重要課題となっている生産性向上と、2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された、2016年から2030年までの国際目標「SDGs」をテーマに設定し、ステージプログラムや先進的な取り組

み事例を体感できる特別展示ゾーン

を展開。AI・ビッグデータ、ICT、IoTを活用したアプローチ例、企業規模を問わず喫緊の課題であるデジタルトランスフォーメーション（DX）の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良くする）や5G対応、データヘルス、生産工程の見える化など、さまざまな分野のセミナーや事例紹介が行われた。

農林水産関係では、四国ケージ(株)が、マイナス×マイナスプラスの数式を元に開発した「ワクモス堆肥（鉄つてすごいね／コーヒーって

すごいね）」を出品。養鶏業界の負

の部分である鶏ふん処理問題、コーヒー業界の負の部分であるコーヒー粕の処分問題に着目し、同社のオリジナル商品「ワクモス」によって薬剤依存の畜産から脱却、コーヒー店と連携することで、両者の廃棄物をミックスさせ、肥料として地球に還元するシステムを提案した。

緩衝材メーカーのカネパッケージ(株)は、埼玉県内に事務所を構える食品添加物の輸出・研究開発会社のサムライトレーディング、青果卸大手のベジテックの3社でSDGsの推進に向けて、バイオマスプラスチックを普及しようと立ち上げた「エコ玉プロジェクト」の取り組みを紹介した。同プロジェクトでは、産業廃棄物の卵殻を60%使ったバイオマスプラスチック（プラスチック40%と混合。商品名「プラスチック」）をサムライトレーディングが開発。価格はプラスチックと同等で、今年6月に取り組みをスタートし、すでに県内の39社が導入を決めている。カネパッケージでは「目標は早期に100社。今後は名刺や飲食店のメニュー表など工業製品にも使えるようにしていく」としている。



カネパッケージ



BIOMIO



四国ケージ